

# 平和体験研修

# 中学生の 平和体験作文

市では、8月4日から6日まで、「平和体験研修」として、市内4中学校3年生の代表20名を広島市へ派遣し、平和記念資料館の見学、被爆体験者の講和聴講、平和記念式典への参列などを行いました。

新しい時代に生きる生徒たちが、人の命の尊大さを考え、人間が作り出した最大の悲劇である核戦争の悲惨さを知り、社会や家庭、学校・学級生活における身近な問題の解決に努めながら、人権の尊重と真の民主主義や平和の在り方を考え、21世紀を「平和の世紀」にする努力を続ける契機にしてほしい、との願いから実施しています。

ここに、生徒の体験作文を掲載しますのでお読みいただき、家庭などでの話し合いの参考にしていただきたいと思います。

## 原子爆弾のくさ



岡谷西部中学校  
もも せ 美 え  
百 瀬 美 恵

8月4・5・6日に広島への平和体験学習に参加させていただきました。原爆ドームの建物を見られることを特に期待していました。

私は、研究テーマを「原子爆弾の被害の凄さや様子」と設定しました。一瞬の爆発で、投下されて周辺の様子がすべて変わるなど、今では考えられない世の中だったと授業で学習していたのですが、もっと詳しく自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じる事ができたらと思います、このテーマにしました。

一日目の夜に被爆体験講話研修がありました。講師の松本さんに当時のお話をいろいろしていただきました。食べ物が多かったり、夏休みが多かったり、授業はほとんどできずに作業や防災訓練をたくさん行うという生活が長く続いたそうです。私が、特に驚いたのは「国のためだったら、泣き言一つ言わなかった」という話です。そんな時に、一番の支えは友達、力を合わせて励まし合ったからこそ、人なみの生活を送ることがで

きるようになっていったという話  
が印象に残りました。

原爆ドームは、61年前とは思えない立派な建物で、世界遺産になるのもうなずけました。そして、平和記念資料館の展示は、原爆の衝撃で体が震えあがるような場所でした。原爆による被害や影響について、写真や説明、また実物で表されており、資料の一つ一つに人々の悲しみや恐怖が込められているのがよく分かりました。特に印象的だったのは、原爆が落とされたあの瞬間から時を刻む事のない腕時計です。8時15分で止まっている事が、その時の残酷さを物語っていました。さらに、生き残った市民が描いた絵は、原爆の恐ろしさを知っているということもあって、心にジーンとくるものがありました。慰霊碑には、「過ちは繰り返さない」と書いてあり、今では25万人あまりの人が広島に投下された原爆の犠牲者となっているのが信じられないくらいです。そして、今回の研修の一番の目的である平和祈念式典に参加し、言葉では表しきれない思いでいっぱいになりました。広島市長さんをはじめ、挨拶をされた方々の言葉は、一言一言に平和への思いが込められていました。私は、平和体験学習で原子爆弾といった核兵器は、何があっても絶対に使っては

平和への想い



岡谷東部中学校  
たかぎ 翔太

ならない事、そして被爆したことは永遠に消す事ができない記憶になると改めて思いました。そのためにも多くの人にこのことを伝えていき、これからの時代も平和で、人々の幸せを大切に続け、いつまでも平和が長く続いてく世の中をつくっていきたいと思いました。

僕はこの研修に参加するにあたり、「原爆の被害と後遺症」を個人テーマに決め、事前学習を進めてきました。このテーマを決めた理由は、本やインターネットで当時の資料やデータを見ただけでは正直、分からない部分が多かったからです。資料を読むのと実際に広島まで行って学習するのではどのくらい違うのだろうと思っていました。しかし、やはり実際に被爆者の方のお話を聞いたり、平和記念資料館を見学した時に、感じたものは全然違いました。

被爆者の方のお話のなかで「8月6日の出来事を忘れたことはない。」とおっしゃっていました。また、「自分の一番の支えになっ

たのは友達。」だとおっしゃっていました。話を聞きながらその内容を頭で想像しながら聞いていましたが、とても恐ろしく他人事のような気がしませんでした。僕の個人テーマに「原爆の後遺症」があります。話を聞いてみると後遺症は想像を越えるほどひどくつらいことが分かりました。当時では傷がひどく耐え切れずに自殺してしまう人が珍しくなかったそうです。



僕はその当時の様子を平和記念資料館で詳しく知ることができました。そこに展示されている資料の数多くはおもわず目を逸らしたくなるようなものばかりでした。本当に全身火傷だらけの人など当時の人々の悲鳴や助けを呼ぶ声、叫び声が聞こえてくるようでした。原爆ドームは原爆が落とされたその瞬間から時間が止まったかのようや残酷さを物語っているようでした。被爆者の方のお話で「私達し

か原爆の恐ろしさを伝えることができないのでこれからもたくさんの人に伝えていかなければいけない。」とおっしゃっていました。原爆ドームはまさにその役目を果たし続けているのだと思いました。原爆の悲惨さを次の世代へ、またその次の世代へと語り続けているのです。

僕はこの研修を通して平和について深く考えることができました。また、原爆の悲惨さについて深く考えさせられました。平和の学習はここで終わりではなく自分達が学んだことをこれからは他の人達に伝えていかなければなりません。

この役目を果たせるように、まずは学校みんなに伝えていきたいです。

友達と命の大切さ



岡谷北部中学校  
ふじさき 美有

私がこの広島平和体験研修で学んだことは、命の大切さと友達の大切さです。

私は、被爆者の松本さんの話を聞いたり、資料館を見ていろいろ考えました。

松本さんの話の中で「友達がは



げましてくれたから今の自分がいる。」と言っている言葉が、特に印象に残りました。もし今、私が松本さんだったら生きていられないかもしれない。松本さんのような立場に立った時、私も友達にはげましてもらえるかなど、とても不安になります。

今、私は何も考えず言った言葉で、いろんな人を傷つけるかもしれない。逆に、私の言葉がはげましになっているかもしれない。相手が、どう思うかはわからないけど、少しでも多く私の言った言葉がはげましになればいいと思います。これから私は、松本さんのように苦しいとき、はげましてくれる友達や、信頼できる友達などをつくっていききたいです。それが平和な世の中をつくる一歩になる

ような気がします。

平和記念資料館は、とても悲惨で私は、泣きそうになりました。資料館は、入ってみると最初は説明がいろいろなところであり、像などはあまりなかったので実感がわきませんでした。しかし、中に進むにつれて原爆投下直後の人の像や、いろんな写真がありました。

それを見て私は、やっと実感がわきました。その中でも私は、三才の子が乗っていた三輪車と私達と同じ学生が着ていた服が心の中に残っています。原爆では後遺症もあり毎年多くの人が亡くなっています。生きたくても生き続けられない人もいます。

今、この世の中では、自殺や殺人事件が多くあります、それは、命の大切さがわかっていないからだと思います。あなたがもしなくなったら、あなたを大切だと思っている人が、絶対に悲しみます。だから少しでも命の大切さを考えなくてはいけないと思います。

今、世界ではまだいろいろなところで戦争やテロなどがあり、核兵器を作っているところもあります。私は、早く戦争が終わって世界中が平和になってほしいです。そのためにも私は、多くのの人にこの研修で学んだことを伝えなければいけないと思いました。その中でも特に、「友達の大切さ」と「命

の大切さ」を多くの人に伝えたいと思います。

### 平和への歩み



岡谷南部中学校  
やま おか ひろし  
山 岡 洋

今回の平和体験研修は僕にとっても意味のあるものになったと思っています。

僕がこの体験で一番心に残っている事は被爆者の方の話を直接聞くことが出来た事です。

今、僕達に話してくれた松本さんと同じように、被爆当時の事を話すことができる方々は年々減ってきています。もう何年かしたら、このような体験は出来なくなるとも聞きました。そんな中こうして話を聞くことができたという事はとても貴重な体験だったと思います。

今回聞いた話は頭の中に焼き付いています。僕は体験研修に行くに当たっての事前学習で、本やインターネットでたくさん話を学びました。しかし、今回聞いた話では、同じ内容を話されているのに感じ方がまったく違ったのです。被爆者の松本さんの話している一言一言がとても重く感じました。

全校の生徒が一瞬にして居なくなってしまったこと、瓦礫の下から叫び声や赤ちゃんの泣き声が聞こえたが助けられなかったこと、体中がボロボロになってしまったこと、川の中をたくさん死体が重なり合って流れていく様子、全てが頭の中に映像となって原爆の悲惨さを訴えて来ました。

原爆を受けた人の後の人生が、どれだけ大変だったかも聞きました。被爆者の松本さんが未だに指(手)が上手く動かせないなどの障害を負っているという事実を聞いたときは本当におどろきました。

多くの人が焼死し、なおも放射線障害という恐ろしいものを残し続けている原子爆弾、『平和にこのような物はいらない、この世にあってはいけない存在だ』とこの時強く思いました。しかし、思うだけではどうにもならない、という思いも同時に出てきました。一人でどうにもならない。では、どうすれば良いのか。最終的に行き着いたのはやはり、出来るだけ多くの人に原爆の悲惨さと平和の大切さをわかってもらうことでした。

僕は今回の体験のテーマの一つとして『原子爆弾が落ちてからの広島復興』というテーマをもつて行って来ました。今回話を聞かせていただいた松本さんに「どうやって今の広島まで復興を遂げた

のですか。」と聞くと、「それはやはり、たくさんの人達が協力したからです。本当にみんなががんばりました。」と言われました。今の広島は原子爆弾が落ちた面影もないほどになっています。それはやはりたくさんの人達の思いが一つになって広島を復興させたからなのではないでしょうか。



僕は学校だけでなく、たくさんの人達に今回の体験の話をします。そうやって世界中の人達の思いが一つになった時、戦争や核兵器というものは、この世から消えてなくなるのではないのでしょうか。それは、はてしない道程なのかもしれない。僕がみんなにこの話を伝えることは、平和へのたった一歩にすぎないかもしれませんが。しかし、歩みはとめます。僕たちは平和に向かって前進していかなくてはいけないと思うからです。